

学校と地域をむすぶ

大津市立葛川小・中学校

かけはし

地域コーディネーターだより

2014. 12. 8

NO. 5

収穫したおいもで やきいもパーティー

春に学校の畑に植えたさつまいもの苗。毎日水やりをしながら「たくさんのおいもがとれるといいなあ」と楽しみにしていた子どもたち。ところが、夏にさるが畑に入り荒らされてしまいました。去年に続き、今年もまた収穫できないのではないかと心配していましたが、わずかの可能性に期待し小学校の1・2年生と保育園の子どもたちでいもほりを行いました。苗植えでもお世話になった老人クラブ寿会の方々にもいっしょにいもほりをしていただきました。はじめは、いものつるを引っ張り出してもおいもの姿はどこにも見あたりません。おじいちゃん、

おばあちゃんたちが、鍬やスコップで土をのけてく



ださいました。子どもた

ちも軍手をはめた手や移植ごてでどンドン土を掘り

下げていきました。「あった〜！」土の中においもの姿を発見し大声をあげます。おいもを傷つけないように、そっとそっとおいものまわりの土をのけていきます。

「細いもや〜」「へびみたいなおいもや」「大きいのも見つけたよ〜」とあちこちから喜びの声があがります。ほぼ全滅とあきらめていたのに、何と次々とおいもが掘り出されました。ちっちゃいおいも、中ぐらいのおいも、でっかいおいもと種類分けしてからみんなで数を数えました。2年生が中心になって数えたり足し算をしたりして、おいもの数がわかりました。なんと、「119個」もあったのです。



100を超える数にびっくりの子どもたち。さらに持って行かれずに土の中で待っていたおいもさんたちです。このたくさんのおいもどうする？「やきいもにして食べたい！」

1週間後に「やきいもパーティー」をしました。寿会の方々にはまたお世話になり、火をおこしていただいたり、いもをぬれ新聞紙で巻いたりするのを手伝ったりしていただきました。はじめはすごい煙を上げて燃えていた火も、おじいちゃんたちの巧みな技でどンドンいこっていきおいもを入れる時がやってきました。ほくほくのやきいもを楽しみにしながら、アルミホイルに包んだおいもを火の中に入れていきます。待ち時間には、おいも体操やおいもじゃんけ



んをおじいちゃん、おばあちゃんたちといっしょにやってみました。30分ほどたつてそろそろ火が通ったころと、試しに一つ取り出して割ってみました。とってもおいしそうな黄色のおいも。でも、ちょっとまだ固い。残念！もう少しのがまん。またまたおいも遊びをして待ちました。そしてやっとできあがりしました。火の中からおいもを取り出してもらい、一つずついただきました。ほくほく、あつあつのおいもです。



「おいしいなあ」「やきいもできてよかったなあ」とおじいちゃん、おばあちゃんたちと楽しくお話をしながら食べました。苗植えの時から教えていただいたり手

伝っていただいた寿会の方々に、お礼の気持ちをこめて、保育園の子どもたちからは手作りしおりが手渡され、小学校1・2年生は「ドレミの歌」を振り付けをつけて披露しました。お世話になった寿会



みなさん、ありがとうございました。

魔法の手 そのすご技に学ぶ

小学校3～6年生は、寿会の方々に「わらぼうり作り」を教えていただきました。この日に合わせて、わら打ちもしておいてくださいました。当日は、朝早くから来ていただき、下準備もしてくださいました。毎年行っている「わらぼうり作り」。初心者の子どもから4回の経験者まで。隣りにおられるおばあちゃんたちが、手をとりながら教えてくださいます。やっていると手が去年のことを思い出して調子が出てきたり、教えていただいた手順に従いもくもくと手を動かしたり、「ちょっと見ていや」と目の前でどんどん編んでいかれるすご技に感動したりする子どもたちでした。編み方を教えていただきながら、「どこの子や～?」「あっ、あの向かいの家やなあ」など言葉を交わしたり、「昔の人はすごかったんやで。こうやって全部自分で作って使ってたんやで。今は、何でも売ってるけどな」と先人のすごさを語っていただいたりしました。同じ姿勢で手を動かし続ける作業はなかなか大変でしたが、難しいところは手伝ってもらい一人一足のわらぼうりが完成しました。編みあがったわらぼうりをさっそくはいて体育館の中を走り回り、その履き心地を楽しむ子どもたちでした。寿会の方々、ありがとうございました。



秋の学校林活動

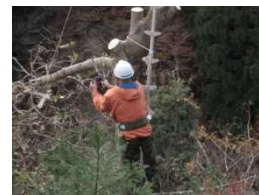
11月20日、今年度三度目の学校林活動を行いました。今回は、木の名札付け、木の枝を切る、苗の移植の3つの活動を行いました。

全校小学生と中学1・3年生で（中学2年生は残念ながら職場体験のため参加できず）アシビ谷まで歩いて行きました。

学校林活動をはじめて4年目になりますが、これまでに植えた木は300本以上。しかし、すくすくと生長している木がある中で、鹿に食べられて枯れてしまった木も少なくありません。植えた時につけた木の名札も取れてしまっているものもたくさんあります。今までに植えた木の名前が書かれた木の札を持ち、その木を探しました。なかなか葉っぱを見ただけでは何の木かわかりません。森林組合の織田さんと伊藤さんに教えていただきながら木を見つけて名札をつけました。「あっ、その木はもう2本しか残ってへんよ」「もうなくなってしまったなあ」という話を聞くと、1本の苗木が育っていくことがいかに大変かということがわかりました。2本しか残っていても、せっかく書いて持ってきた名札。1本の木に2つ3つと重ねて名札をつけました。次来た時に、ちゃんとこの木が残っていますようにお願いしながら。



学校林の正面に大きな桐の木があります。この桐の木の下枝がかなり大きく広がっており、下にある杉の木にあまり陽があたりません。そこで、この下枝を午前中に中西専務が切り落としておいてくださいました。そして、残っている1本の大きな下枝を、命綱をつけた織田さんが木に上り、枝に巻かれたロープを伊藤さんがひっぱり、チェーンソーで切り落とす作業を目の前で見せていただきました。



た。大きな枝が切り落とされた時に、しっかりとロープで引っ張られていたので、下にある杉の木も無事でした。そして、切り落とされたたくさんの下枝をみんなでのこぎりを使い短く切って重ねて置きました。チェーンソーで豪快に切るのとは違いました。

た。大きな枝が切り落とされた時に、しっかりとロープで引っ張られていたので、下にある杉の木も無事でした。



が、のこぎりで木の枝を切る体験をさせてもらい、少し山の仕事をしている気分になりながらも、下にある木の生長を考えながら枝を切り落とすという仕事の大切さも感じました。

アシビ谷から学校にもどり、3つめの活動です。昨年の秋に、拾ってきたどんぐりの実や給食についた柿の種などをプランターに植えました。「ほんまにこの実

や種から芽が出るの？」と半信半疑でしたが、芽は出ました。そして夏の間にくすくすと生長し、1年たったこの秋には20cmぐらいの苗木になりました。不思議なもので、まだ小さい苗木でも、ちゃんと紅葉して落葉していました。葉っぱが落ちて細い木の幹1本になっていてもしっかり根をはっていて驚きました。保育園の前にある大きなみじの木から飛んできた種からも芽が出て大きなものでは30cmぐらいの苗木になっていました。これらの苗木を1本ずつポットに植え替えていきました。150以上もありました。きっと来年にはこの苗木を山に持って行き植えることができるだろうということでした。大きな苗木を山に植えるだけでなく、自分たちの手で芽を出し育てた苗木を山に植えるということは、また違ったやりがいを感じられます。このポットに植えた苗木がすくすくと生長していく姿が楽しみです。

この秋は今までとは違う3つの活動を行い、短い時間で盛りだくさんでした。ご指導いただいた織田さん、伊藤さん、そして下準備をしておいてくださった中西専務、また、普段から網の補修などをしている森林組合のみなさん、ありがとうございました。



久多のおばあちゃんたちとふれあって

11月27日、保育園児と小学校1～4年生で久多のいきいきセンターに行き、福祉体験活動の一環として、久多のお年寄りの方々とふれあい活動を行いました。いきいきセンターで待っていてくれたのは、10人のおばあちゃんたちと久多社会福祉協議会の方々です。ふだんなかなかふれあったりお話ししたりすることのできない久多のお年寄りの方々に、発表を見てもらったり、いっしょに楽しんでいただきたいという思いで、子どもたちは久多に向かいました。3・4年生が中心となり、司会・進行をつとめました。まずは保育園のお友だちの発表です。「おもい体操」や「ラーメン体操」で元気いっぱい体を動かす子どもたちといっしょに、おばあちゃんたちも座ったまま手をあげたり回したりしてくださいました。手あそび歌でもいっしょに指を動かして楽しんでもらいました。いろいろな打楽器の演奏には、「上手やあなあ」と大きな拍手。次は、1・2年生の発表です。「変身トンネルマラソン」という言葉あそびの出し物をしました。トンネルの入り口に入ったものが出口では違うものに変身。「かっぱ、かっぱ、



かっぱ・・・」とトンネルに入った河童は、出口から出ると、「ぱっか、ぱっか、ぱっか・・・」と何と「馬」になりました。「おまんじゅう」は「まんじゅう、まんじゅう、・・・」と言って出口では、「じゅうまん、じゅうまん・・・」。何と、「十万！」お金に変身。こんなトンネルあったらいいなあ。やっていくうちにおばあちゃんたちも口を動かしながら何になるのか考えてくださいました。

3・4年生は、お年寄りの方々にいっしょに楽しんでもらいたいという思いで、ゲームを計画しました。ゲーム



といっても動き回るものではなく、座ったままでもできて楽しめるもの。はじめは「早口言葉送りゲーム」です。お題になっている早口言葉をワンフレーズずつ言ってボールを手渡しながらか隣のの人に送っていきます。ボールを渡すだけではなく早口言葉を言わなければならないので大変でしたが、「次、ここやで」「これ言うたらええんやなあ」とあちこちで楽しい声が上がっていました。2つめはジェスチャーゲーム。ジェスチャーを見ながらおばあちゃんたちも「何やろう」「〇〇かなあ」といっしょに考えてくださいました。



おばあちゃんたちとのふれあいタイム。子どもたちが座っておられるおばあちゃんたちのところに行って、肩をもんであげたり、足をさすってあげたりしました。

おばあちゃんたちはとっとうれしそうで、名前前の教えあっこもしました。あつという間に過ぎていった時間。最後に子どもたち



からおばあちゃんたちにプレゼントを渡しました。



保育園のお友だちからは手作りの「どんぐりごま」。小学生からは、まつぼっくりで作ったモビールと落ち葉をはってデザインした大きなカレンダー。どちらもおばあちゃんたちがいつも集まれる「いきいきセンター」に飾ってもらうことにしました。久多の社会福祉協議会からは子どもたちにすてきなプレゼントをいただきました。大事に使わせていただきます。ありがとうございました。発表を見て大きな拍手を送っていただいたこと、いっしょに声を出したり笑ったりしながらゲームを楽しんだこと、手をつないだりお話をしたことなどをしっかり胸にしまって「楽しんでもらえてよかった」という満足感いっぱい、いきいきセンターを後にしました。おばあちゃんたち、お元気で。

みんなできれいに

12月2日、小学生と中学生で地域清掃を行いました。真冬のように寒い日ながらも、太陽の日差しのある日でもありました。今年2回目の地域清掃は、明王院で行いました。はじめに環境整備推進委員の飯島さんのお話を聞きました。大津市内ではゴミの不法投棄が非常に多いこと、葛川の環境をみんなで守っていきましょうという声かけをしていただきました。三宝橋の手前から明王院へ上がる階段にかけての落ち葉拾いをしました。たくさんの落ち葉を竹ぼうきやクマデで掃いたり、手ですくって袋に入れたりしました。はじめ見た時は、落ち葉で橋や階段がうめつくされていましたが、みんなで一生懸命手を動かしているうちに、石畳が見えてきて「きれいになってる」と実感しました。落ち葉の入った袋もどんどん増えていきました。集めた落ち葉もリサイクル。肥料にするために竹林にまきました。葛野さんの話によると、落ち葉の中でも「もみじ」の葉はとてもよい肥料になる



そうです。落ち葉を集めてきれいになっただけではなく、その落ち葉がまた役に立っていくのだと思うと、とてもいい気持ちになりました。限られた時間でしたが、みんなで力を合わせてきれいになりました。最後に葛野さんから「がんばってきれいにしてくれてありがとう」というお言葉をいただきました。「もみじの葉がいい肥料になり、きっと春には竹林にはたくさんのタケノコが出るでしょう。猿より先に掘りにきてね」と。



この後、支所に行き、老人クラブの方々がついてくださったおもちをいただきました。1・2年生は、先におもちつきもやらせてもらっていました。つきたての白・よもぎ・トチもちをいただき大喜びの子どもたち。お家に帰っておいしくいただきました。寿会のみなさん、ありがとうございました。